

平成20年7月14日

関係機関長および関係各位

京都大学防災研究所長  
石原 和弘

教員の公募について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当研究所は「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」を目的とした全国共同利用の研究所であります。平成17年4月には、中期目標・中期計画に沿って研究教育活動を確実に速やかに実行するために、分野横断的な連携をさらに強化する全所的な改組を行い、現在に至っております。

このたび、下記のとおり教員を公募することとなりました。つきましては、ご多忙中のところ、まことに恐縮でございますが、関係各位の皆様方に適任者の応募についてよろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 公募人員： 准教授1名
2. 所 属： 地震・火山研究グループ 地震予知研究センター 地殻活動研究領域
3. 研究内容等： 発生が切迫している南海地震およびこれに伴う内陸地震の活発化を念頭に、新しい発想に基づく観測・解析手法を導入しつつ地震・地殻活動のモニタリングとモデリング研究を総合化する先端的研究等、新たな研究展開を図る人材を求める。  
また、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教育を担当する予定である。
4. 任用時期： 可能な限り早い時期
5. 応募資格： 博士の学位を有するもの  
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えることが望まれる。
6. 提出書類： 次の(1)～(6)各一式
  - (1)履歴書
  - (2)研究業績一覧（Peer Reviewed Paperおよびその他に区分けした論文、著書等の一覧表）
  - (3)主要論文別刷（コピー可） 5編
  - (4)研究業績の概要（A4用紙2枚以内）
  - (5)今後の研究計画及び抱負（A4用紙2枚以内）
  - (6)推薦書または応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先
7. 公募締切： 平成20年10月15日（水）必着
8. 書類提出先： 〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室  
地震予知研究センター 地殻活動研究領域准教授選考委員会 宛  
（封筒の表には「教員応募書類在中」と朱書し、郵便の場合は書留にすること）

9. 問い合わせ先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付  
地震予知研究センター地殻活動研究領域准教授選考委員会  
e-mail: ryohhei@uji.kyoto-u.ac.jp  
(封書またはEメールに限る)

10. その他：

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。

---

#### 京都大学防災研究所 地震予知研究センターの概要

当センターは平成2年6月に、地震予知に関する基礎研究を行うとともに、学内外の研究者との共同研究を推進し、地震発生の原因と機構を解明し、最終的に地震予知手法を確立し、地震災害の軽減のための基礎的な方法の確立を目的として設立された。平成17年4月の改組に伴い、7研究領域（内客員1）と8観測所の構成となった。それ以来、地震災害研究部門、火山活動研究センターおよび新設の地震防災研究部門と研究グループを構成し、密接な連携を保って研究が行われている。

今世紀半ばには、南海トラフ沿いのプレート間巨大地震の発生確率がピークに達するとされている。それに向けて、内陸被害地震も増えると予想される。このような地震による被害の軽減を目指して、南海トラフ沿いの巨大地震の予知研究、内陸の被害地震の予知研究、および研究成果の社会への効果的な普及・教育を当センターの3本柱として強力に進めている。

地震予知研究へのアプローチを行う研究領域には、「海溝型地震研究領域」、「内陸型地震研究領域」、及び「地殻活動研究領域」の3研究領域がある。ここでは、広域かつ多種目の観測・測量に基づき、地震予知に密着した研究を進めている。さらに、「地震予知情報」研究領域では、地球科学的観測データを収集し、データベースを構築すると共に、それに基づいた地震予知研究を、他の研究領域と連携して総合的に進めている。

このほか、地震予知へのより実践的な研究領域として、「地球計測」と「リアルタイム総合観測」研究領域がある。前者は、地震に伴う地学的現象を記録・解析するための、新しい観測手法や計測技術の開発研究を行い、室内・野外での実験観測を通じて地震発生の準備過程の解明に資する。後者は、地震の発生機構や地殻活動の推移予測に関する研究の高度化のために、特に進行中の地殻活動をその活動域で直接捉える地震・GPS・地球電磁気等の総合的な観測研究を行う。

基礎的研究領域として「地球物性研究領域（客員）」があり、地震発生においてもっとも重要な要素である地球内部の構造や物性に関して広範な視点から研究が進められている。

さらに、地震防災研究部門には、「地震発生機構研究分野」や「地震テクトニクス研究分野」がある。これらの研究分野では、地震発生メカニズムや広域のテクトニクスに関する研究を観測・理論・実験の各方面から進めており、当センターとも密接に連携して研究を推進している。

また、センターには8観測所が配置されているが、このうち上宝、北陸、阿武山、鳥取の4観測所は、主として内陸地震を対象として内帯総合観測網を形成している。屯鶴峰、逢坂山の2観測所では主として近畿中南部の地殻変動を観測し、内陸地震とフィリピン海プレートの沈み込みによる最上部マントルの地震を研究対象としている。また、徳島観測所では主として四国沖の巨大地震を対象とし、他大学の観測所と共に南海観測網の一環をなしている。さらに、宮崎観測所は主として日向灘及び南九州の地震を対象とし、地殻変動や地震の観測網を形成している。

当センターでは、これまでに内陸地震の研究のための高感度地震合同観測、電磁気共同観測、G

P S 大学連合同観測や、断層の解剖計画等において、多くの大学等との共同研究を行ってきたが、平成16年度から始まった「地震予知のための新たな観測研究計画」（第2次）では、なお一層他大学や他機関などと協力して地殻活動予測システムの構築を目指した共同研究を推進している。さらに、現在科学技術・学術審議会において審議中の「地震および火山噴火予知のための観測研究計画の推進において」では、「予測システムの開発」をより明瞭に志向した研究に重点をおくこととされており、この計画に対してセンターとして全国の地震研究者のみならず火山研究者も含む組織的な取り組みをすべく提案を行っている。

-----  
センターの組織と教員構成（平成20年7月1日現在）

当センターには組織上、下記の7研究領域および8観測所が設けられているが、多くのプロジェクト的な研究や観測の実施に当たっては、教員は随時研究チームを作り研究活動を行っている。

（研究領域と構成員）

	教授	准教授	助教
地殻活動研究領域	川崎一朗	(本公募)	徐 培亮 (選考準備中)
海溝型地震研究領域	橋本 学	渋谷拓郎	福島 洋 許斐 直(徳 島)
内陸地震研究領域	飯尾能久	深畑幸俊	大谷文夫
地震予知情報研究領域	西上欽也	竹内文朗	加納靖之 寺石真弘(宮 崎)
地球計測研究領域		柳谷 俊	森井 互
リアルタイム総合観測研究領域		片尾 浩	(選考準備中)
地球物性研究領域(客員)	日置幸介		

（観測所）

上宝観測所、北陸観測所、鳥取観測所、阿武山観測所、逢坂山観測所、徳島観測所、屯鶴峯観測所、宮崎観測所

なお、京都大学防災研究所の詳細は下記のホームページをご参照下さい。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>